
Silent Night

R A N

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

S i l e n t N i g h t

【Nコード】

N 6 6 3 2 U

【作者名】

R A N

【あらすじ】

ドラゴンクエスト5の、主人公×ピアンカ。

サラボナでのプロポーズ前夜の二人の心の揺れ動き。

君との再会は驚きだった。

まさか君とここでまた会えるなんて。

アルカパに行つて、引越したつて聞いた時は、もうこれで会うことはないんだな、と思つた。

心に風が吹いたような寂しさを感じた。

僕は、その気持ちは何なのかよくわからなかった。

君とまた会えるなんて思つてなかった。

子供の時のお化け退治が懐かしい。

まだ昨日のことにように思い出せる。

君はすっかりたくましくなっちゃったけど、会つた時の笑顔は、あの頃のままだと思つた。

君は、変わらないけど、変わってしまった。

やっぱり、天空の盾が欲しいからフローラさんと結婚しようなんて間違いじゃないのか。

彼女には、必死になつて彼女を欲する人がいるのに。

彼女だつて、よく知りもしない僕の妻にいきなりなれなんて言われてどう思うだろう。

彼女は、この夜をどう過ごしているのだろうか……。

それに、僕はやっぱり……。

君が私のいる村を訪れたのは、フローラさんと結婚して、天空の盾をもらうため。

天空の武具をそろえるのは、君のお父さんの念願だったものね。ただ、実際のところ、君がフローラさんをどう思ってるのかが気になったりもする。

やっぱりああいう清楚な人の方がいいんだらうか。

じゃあ、私じゃあ君の側にはいれないよね。

僕は眠れなくて、外を歩いていた。眠れるはずがない。

すると、ルドマンさんの別荘に明かりが見えた。

まさかと思い、近寄ってみる。

そこには　　君がいた。

君は私を驚かせてばかりだね。

こんな夜中に君が訪ねてくるなんて、誰が思う？
だから言ったの。

「こんな夜中に私に会いに来ちゃダメじゃないの。フローラさんと結婚するんだから」

窓の側で夜空を見上げてる君は、寒気が走るくらいきれいだった。君に言ったら、お世辞だと言って本気にしてくれないから、言わないけど。

僕が話しかけたら、君は驚いた顔をしていたな。

でも、君が次に言った言葉、僕はどうしてもひっかかった。

私の言葉に、なんだか君は悲しげな顔をした。

なんでそんな顔をするの？ フローラさんと結婚できて、それでいいはずでしょ？

君は、何を望んでいるの？ 私に何を望んでいるの？

そんな顔されたら、私はどんな顔をすればいいの？

僕は言うことができなかった。

ここで僕の気持ちを言うのは卑怯な気がしたから。

それに、君にそんな困った顔をさせたくない。

明日、僕は決めるよ。

僕のせいで、色々な人に迷惑がかかってしまったけど、やっぱり

この気持ちに嘘はつけない

ピアノカ、君のために。

僕の心は、君に出会ったあの時から決まっていたんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6632u/>

Silent Night

2011年7月8日12時53分発行